

愛するものしか守れない、と私はいつも言ってきた。

じゃあ、どうすればいいのだ？

どのように環境を守れば？ と人は問う。

外に出かけて、恋をすること。

川に恋を。農場に恋を。

ひとつの生物の種に恋を。

ただ何かと恋に落ちる。

そうすれば、きっとそれを守ろうとする。

Andrew Kimbrell



2人の科学者アーパッド・プシュタイとイグナシオ・チャペラは、ともに遺伝子組み換え作物・食品の危険性について重要な発見をし、それを発表したことでバイオ産業から激しい攻撃を受ける。

映画『暴走する生命』の中である科学者が、遺伝子工学の最大の問題は科学者の95%が企業側に属し、独立した科学者は5%もいないことだ、と警告した。映画『サイエンティスト』は、科学が今日何によって支配されているか、私たちが今どんな世界に取り巻かれているのかを、科学者自身の言葉で明らかにしていく。

攻撃にさらされてもなお、遺伝子組み換えの危険性と不正を発信し続ける科学者たちを根底で支えるものは何か。

科学に自由はあるのだろうか

登場人物

映画でGMOの危険性は明らか。どの言葉も一つ一つが重い。何度でも観たい映画です。

とても示唆的でした。企業や産業が科学を決めている。原子力村と同じですね。私達はもっと知らなくてはなりません。

飽くなき利益追求の経済と科学技術の暴走の中で、私たちがまた攻撃にさらされていると言える。

アンケートから

●アーパッド・プシュタイ Prof. Arpad Pusztai

生化学者 英国のローウェット研究所に35年間在職。1995年から遺伝子組み換えジャガイモの安全性を確認するためにラットへの給餌実験を行ったところ、脳や臓器の発達異常、免疫システムの異常などを発見した。1998年にTVインタビューでこれを発表し世界中に衝撃を与えたが、2日後に終身停職処分を受ける。研究に関するいっさいの発言を禁じられ、職を解雇された。

ここでは誰も私がしたことを気にしない。私は教授ではなく、一人の人間として過ごせる (故郷ハンガリーにて)



●イグナシオ・チャペラ Prof. Ignasio Chapela

微生物学者 カリフォルニア大学バークレー校 遺伝子組み換え作物の作付けが禁止されていたメキシコで、遺伝子組み換えトウモロコシを発見。汚染の深刻な広がりを明らかにする。2001年に科学誌「ネイチャー」にその論文を発表し、産業界から激しい攻撃を受ける。また、企業から大学への数百万ドル規模の出資に公然と反対し、2002年から3年間、終身在職権の取得を拒否された。

私は、菌に恋をした一人とでも言うか...



●アンドリュー・キンブレル Dr. Andrew Kimbrell

弁護士 食品安全センター(ワシントンを拠点にするNPO)代表 米国・食品医薬品局(FDA)に対して、遺伝子組み換え食品の安全性テストと表示の義務化を求める訴訟を起こす。

FDAの6万ページもの内部資料を手に入れた。毒性、アレルゲン、免疫、栄養低下、環境汚染...政府機関の科学者たちが遺伝子組み換えの安全性に関する研究の必要性を訴えていた。だがいっさい行われなかった



●テリエ・トラヴィック Prof. Terie Traavik

分子生物学者 ノルウェー GenOC理事 ジーン・エコロジー研究所代表

我々の仕事は、科学的な最悪のシナリオを仮説として立て、実験し、仮説を強化するか、あるいは破棄することだ。それが社会的任務だ



●アントニオ・アンドリオリ Prof. Antonio Andrioli

ブラジル・オーストリア 哲学・環境教育研究者

現代は自然に対しても特許が取られる。これは新しい封建主義であり、過去の時代への逆行だ



●ジェフリー・スミス Jefferey Smith

作家・ジャーナリスト 「遺伝子組み換えのプロセス自体がDNAにダメージを与える。プシュタイの実験がそれを証明した」

科学者への攻撃は、バイオ産業によって巧妙に仕組まれ、システムチックに世界規模で連携される。それは彼らのビジネスの一環なのだ



●ニーナ・フェドロフ Prof. Ninna Fedoroff

分子生物学者 米国大臣科学顧問

企業は金をもうけるために在るのです。公共善のためにだけ在るわけじゃない



監督から

これは一例に過ぎない

私は30年以上にわたって、デンクマル・フィルムでドキュメンタリーを作ってきました。ずっと一貫して、政治と環境と社会をテーマにした作品を作り続けています。この10年間は遺伝子組み換えをテーマにしました。私は民主主義の文化と広い意味での「教育」についての映画を作る事に専念しています。社会的な問題に取組んでいる人々に焦点をあて映画に撮ることで、彼らを力づけたいと願っています。「どうやって何もできないのだ」というドグマなどに、誰も服従してはいけません。

ベルトラム・フェアハーク